

## 平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会記録

1. 日 時 平成 30 年 10 月 29 日(月) 14 時 20 分～15 時 50 分
2. 場 所 本校校長室
3. 出席者 学校協議会委員 (6 名)
- |            |       |
|------------|-------|
| 大阪教育大学教授   | 廣木 義久 |
| 八尾市立成法中学校長 | 横川 一敏 |
| 八尾市立八尾小学校長 | 木下 由季 |
| 八尾市内学習塾代表  | 児玉 隆  |
| 本校同窓会副会長   | 松村 康隆 |
| 本校 PTA 会長  | 重村 吉則 |
4. 協議概要 協議に先立って、新たな取組等のプレゼンテーション、施設見学、授業観察、「平成 30 年度学校経営計画」の進捗状況の報告を行いました。
- 以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。

### (三学期制への移行について)

- 「カリキュラムマネジメントを考える会」を立ち上げて、二学期制から三学期制への移行を検討しているとのことだが、例年通りというマンネリ化をなくし、学校を活性化させるという意味でも、たまに制度的なものを大きく変えるのは、学校にとって良い効果があると思う。
- 広報的には、三学期制への移行というのは注目を浴びる点になると思うが、学習面でどういう点で有利になるのか、以前の三学期制とはどこが違うのか、というところを明確にして、アピールすることが大切であろう。

### (広報活動への助言)

- 高校における主体的な学習活動についてポートフォリオ形式で記録し、それを大学受験でも点数化するという方向に動いている。そのような大学入試の変化を中学生と保護者に説明し、八尾高校がそのような活動をするのに向いている高校であるということを理解してもらわなくてはならない。八尾高校は、学力の三要素をバランス良く伸ばすには最適な学校であるはずだ。

(総合的な探究の時間への対応について)

- 総合的な探究の時間に課題研究をしてプレゼンテーションをし、校外の大会等で発表する機会も作りたいとのことだが、まだまだ評価のしかたについても手探りということになるだろう。まず校内で生徒がプレゼンをする機会をできるだけ作り、校内で表彰するというようなことを先行してやっていくと良いのではないかな。

(改訂したパンフレットについて)

- 生徒が作ったパンフレットを拝見して、優しさを感じるいいパンフレットができたな感じた。学校が制作するパンフレットと違い、生徒の姿がたくさん出ていて、八尾高生自身が感じている「自分たちの学校ってこんなんや」という思いが伝わってきて、学校の特色がうまく出せているパンフレットになっていると思う。

(授業力向上に向けた職員研修について)

- 生徒役も先生がたがする形の授業力向上研修の報告があったが、このような形の研修ははじめはなかなかしんどいと思うが、できるだけ和気藹々と楽しくやれる雰囲気を作って、どんどん深めてもらおうと、指導力が上がってよいと思う。他の先生のやり方を見て、自分の授業に取り入れることができるよい機会としてほしい。

(学習時間調査の結果から)

- 学習時間調査の調査期間だけスマホの使用を控えているのではあまり意味がない。また、スマホの使用を控えて作り出した時間をどう使うかというところにどのくらい意識が向いているのかというあたりも気になる。

(地域連携事業について)

- 「クリスマスリースを作ろう」や「天体観測をしよう」という企画などを伺ったが、地元の高校でのイベントに参加したいというニーズは、小・中学生、保護者ともかなりある。小・中学生のキャリア教育の一環としても良いのではないかな。

(体育祭の6月開催について)

- 体育祭の6月開催について検討しているとのことだが、準備期間が短くなるのが難しいところか。一方で、新任教員にとっては、早い時期に、様々なことを身につけることができる場となるので、教員を育てるよい機会にできると思う。

(平成31年度当初人事に関する意見、要望)

- 運動部の部活については、楽しく続けられるように、そのスポーツの楽しさが教えられる指導者に来てもらうのがよいのではないか。
  
- 専門の技術・知識を持った指導者に指導してもらう方が、そのクラブに所属する生徒にとっては、有意義な3年間を過ごせる。全てのクラブにそのような人に来てもらうことは難しいと思うが、できるだけそのように配慮してもらうことが望ましい。
  
- クラブ指導の専門性を重視するという点は重要だが、八尾高の先生として、校長先生が推進する学校の方針にマッチすることが前提となる、ということも是非付け加えていただけたらよいかと思う。